

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームふきのとう 本館第3	評価実施年月日	平成20年9月25日
評価実施構成員氏名	管理者・介護支援専門員 遠藤 珠江 ユニット・リーダー 熊田 陽子 ユニットパートナー 村上 幸子 榎谷 依子 木村 美保子		
記録者氏名	遠藤 珠江	記録年月日	平成20年9月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を通し、結果をミーティングで報告し職員がスキルアップ出来るように努めている。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を行っている。日頃のユニットの取り組みや事故等の報告を行っている。また、委員からのご意見等にも真摯に受け止め記録し内容は職員が把握出来るように書面にし回覧している。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム協議会等を通し外部研修に参加するなど他のグループホームの方とは交流を図っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ケアマネージャー・管理者は、権利擁護に関する研修には参加している。ユニットの勉強会として、研修内は職員へも伝える機会を作っている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、内容はユニットへ持ち帰り、ユニット内の勉強会として伝えているが、認知の重度の方が多く、大声で叫ぶ事が多いため周りから誤解を招く事もあり、対応については十分に注意している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時は、本人・家族・管理者・ケアマネージャーが同席し十分に説明を行い署名・捺印を頂いている。入居後は、本人の状況を随時報告し家族等の連絡は密に取って対応している。何か一つ問題があると、本人(場合による)・家族・管理者・職員を交えカンファレンスの機会を作り問題を解決している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居する際も、家族へ苦情等についての機関等を説明している。また、家族等からの苦情や近隣住民からの苦情も、真摯に受け止め迅速に対処している。また、苦情内容も職員が把握出来るように書面に記載し回覧している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	金銭等については毎月、家族へ請求書と預かり金からの支払い等(医療費等)の明細を送付して明確にしている。また、「ふきのとう通信」として、入居者の様子を毎月発行し送付している。体調等については変化も常に電話等で家族へ報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談・苦情の窓口を設置している。苦情等があった場合は、内容を真摯に受け止め迅速に苦情等の処理を行っている。内容については、記録し職員全体が把握出来るように回覧している。運営推進会議でも報告している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニットミーティングやリーダーミーティングを定期的に行い、職員からの意見等を聞いている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	家族の都合契約やカンファレンスが、休日しか来訪出来ない場合は、担当者は常に家族の意向に沿って対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は殆どないが、女性の産休の場合は、職員の欠員が出る為に職員を補充している。また、職員の勤務の関係でユニット間を行き来する職員もいるが、常に顔見知りの関係が確立している場合に対応している。		
5. 人材の育成と支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務年数と研修内容を見ながら、レベルアップ研修に参加している。また、新人研修として、勤務3ヶ月目に改めて「認知症」等の勉強会を行っている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他のグループホームへ見学に行き、入居者の対応について勉強に行く機会を作り、お互いに質の向上を図るように努力している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	市内スポーツジムの法人会員として職員には自由に利用出来るように対応している。定期的に、グループホーム全体の慰労会やユニット内での交流会等の機会を作っている。職員のストレス等を傾聴しながら働きやすい環境を作るように努めている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の勤務年数に応じて、各資格等を受けて行けるように研修等機会を作っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初めに築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	認知が重度化すると中々意思の疎通が困難になっているが、入居者の表情を見ながら「不安」「痛み」「苦しみ」などないか常に把握出来るように観察している。また、何か訴えがあった場合は、傾聴して一緒に考えていくように対応している。		
24 初めに築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が来訪時には、日頃の入居者の様子を報告している。認知・身体状況が低下している方が多くなっている。今後の対応については、家族の意向は常に聞きながら、グループホームで出来る事を、伝えながら家族と一緒に考え「看取り介護」等の対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	常に本人・家族の意向を伺うようにカンファレンスの機会を作っている。入居されても認知が軽度でまだ、本人が出来る事が多い場合、本人の意向を聞きながら家族と「本人の幸せ」について何度もカンファレンスを開き対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居を希望される本人や家族の方には、出来る限り、入居前にユニットを見学して頂いている。日頃のユニット内の様子を見て頂き、明るく安心の出来る環境を作っていくように日々、職員と話し合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の会話から、昔苦労した事など伺いながら、どのような生活を送っていたのかなど把握している。また、人生の先輩として、家事など教わりながら生活している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状況を報告しながら、家族と協力して穏やかに生活を送って頂くように対応している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族との連絡等を密にして、本人が穏やかに生活を送っていけるように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族との連絡を密に取っている。来訪された時は、本人とゆっくり過ごして頂けるように対応している。		家族も高齢化で、来訪される事がここ数年全くない方もいる。このような家族との関わりについては、常に職員と検討を繰り返している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	長年一緒に生活して来た関係もあり、一緒に手を引いてトイレに行く光景も見られる。職員を通し会話の機会を作るなど努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された入居者家族とは、中々その後の付き合いはないが、退去される時は「何かあれば、いつでもご連絡を下さい。」と今後も支援する事を伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知の重度の場合は、意思の疎通が困難になっているが、出来る限り本人の意向を聞けるように努めている。また、本人にとって、「何が良いのか？何が幸せなのか？」と常に職員と検討する機会を作っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族含め、暮らしの情報は伺っている。家事が得意な方の場合は、生活援助計画・ケアプランにも反映している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	食事の時間等は、本人のペースに合わせて対応している。身体状況も個々の為常に状況を見ながらの対応としている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者の身体状況等に合わせ家族の意向や主治医の意見・指示を生活援助計画・ケアプランに反映し作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		<p>日々の状況を記録し、身体状況の変化、失禁等の状況を情報とし職員と共有している。トイレの誘導等の結果、失禁が減少した方には、紙パンツから布パンツへ移行し対応している。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		<p>夏祭りなど行事には、家族の方に案内をして、参加していただくように対応している。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		<p>認知の軽度な方で、今後もGHでの生活よりも在宅生活に戻った方が良い方の場合など、地域包括等の協力を得て在宅へ戻ったケースもあります。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		<p>地域包括のCMへ、入居者の対応等を相談し助言を頂く事もある。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		<p>地域包括からの紹介もあり、入居される方も多く、入居後も連絡を取り合い生活援助計画へも反映し対応している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	在宅から同じ病院に通院している方も多い。また、かかりつけ医として、隔週に往診に来て頂き入居者の体調管理を行っている。身体状況の変化等は常に、主治医へ連絡を取り指示を受けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	長年、認知症の方を診ている主治医に、入居者の身体状況を含め相談し指示を頂いている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隔週で往診に来ている病院の看護師へは、入居者の体調管理等を含め相談し指示を頂いている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時から、退院に向けて主治医・看護師を含めカンファレンスを行い、長期入院にならないように努め、退院後のケアについても指示を常に仰ぎ対応している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時には「看取り意向確認」を家族等から伺っている。長年、ホームで生活している入居者の家族とも定期的に確認をしている。「看取り」をホームで希望される家族の場合は主治医とも相談しケアについて指示を仰ぐと共に、医療機関を希望する家族の場合は、早い段階から主治医へ相談し対応している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	日々、医療的処置が必要なのか？、訪問看護にて対応出来るか？GHはどこまで対応出来るのか？を常に主治医と相談し指示を仰いでいる。また、家族も交え検討する機会も作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>身体状況によって、グループホームでの生活が困難な方に対しては、家族・主治医と十分にカンファレンスを行い本人の負担を軽減するように早急な対応に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報保護の為、写真等も家族の意向を伺いながら公表しない方もいる。「ふきのとう通信」へ記載する内容も考慮している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>常に声掛けを行い会話の機会を作っている。外出する際も、本人の気持ちを伺いながら対応している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>できるだけ、天候の良い時は散歩や外出の機会を作って行きたいが、本人が希望しない場合は、無理せず本人のペースで対応していくように努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>以前は、町の美容室へ行っていた方も、歩行の関係等で困難になって来た為、定期的に訪問美容師を依頼し対応している。美容師も何度もホームへ来ている為顔見知りの関係になって来ている。本人の特徴を見て髪型をセットして頂くように努めている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の状況に応じて、刻み食・トロミ食・普通食を提供し、食べこぼしが多くても出来る限り自力で食べて頂くように対応している。食器拭きやテーブル拭きなど入居者の方にお手伝いをお願いし職員と一緒にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	昔から、甘い物が好きな方には、「羊羹」など和菓子を提供している。食欲の無い方の場合は、本人の好きな塩辛い物を提供しながら、食事を摂って頂くなど工夫している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	本人の状況に合わせて、トイレ・ポータブルトイレを使用して頂きながら、オムツ等の使用を遅くしていくように努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	出来るだけ、本人のペースで入浴をして頂きたいが、車椅子の方などの場合は、曜日を決めて対応している事もある。		夕方以降に入浴する事は殆どないが、入居者の状況によっては今後対応していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間に徘徊される方もいる為、その方のペースに合わせて日中に居室で休んで頂く事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	カラオケや賑やかな事が好きな方が多い為、ホームの行事の中に「歌の会」などを取組んでいる。また、家事が得意な方には、ユニット内のお手伝いに参加して頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	直接、本人が小遣いとして保管している場合もあるが、事務所にて保管し必要に応じて、家族等の了解を得ながら、買い物代行や買い物同行して職員が対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩など出来る限り、本人の意向に沿って対応している。ユニットの外出する機会を作っている。		高齢に伴い、歩行が困難になっている方が多く、市内でバリアフリーの施設等が少ない為行き先を選定する上で苦慮している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	交通記念館や小樽ウイングベイなど、ユニットで外出出来る機会を増やし対応している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	最近は殆どないが、地方にいる娘さんに本人が職員を通して電話で話す機会を作り対応していたが、最近は電話や手紙等で家族と連絡を取る事が少ない。家族も高齢等になっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	夏祭りの案内なども家族へ連絡し参加して頂くように対応している。また、いつでも訪問して頂けるように明るい環境を整えるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	以前は、ベッドから床に降りる事が多く、大腿骨骨折など怪我をされた方にサイドレールを2本設置し対応していたが、現在はサイドレールを外し見守りを強化し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	落ち着かず、何度も玄関先へ出て外出しようとする入居者に対しては、止めるのではなく職員が見守りしながら、安全面に注意し自由に出掛けられるように対応している。		鍵を掛けないように取り組んでいくように今後もケアの見直し等含め対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ユニットは階段下にも居室があり、リビングから死角になっている為、入居者が他の居室に入っていくないように努めている。また、歩行の不安定な方も多く徘徊される為転倒等には十分に注意して対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保険証等は事務所にて管理している家族の確認も取り預かっている物は書面にて記載している。本人が金銭等で神経質になり不穏になる場合は、分りやすく書面にして本人に渡している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	身体状況に応じて、食事内容を工夫し刻み食やとろみ食等に対応している。食事の際も見守りを強化し誤嚥等の事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命処置等は出来るだけ多くの職員に、研修等にて参加し訓練をしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議にて呼びかけている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	加齢により、ADLの低下が著しい方が多く、日頃から転倒の危険がある為注意して対応している事など、常に家族へ説明している。事故のないように見守り等を強化するように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、健康チェックとしてバイタル・水分・食事・排泄等を観察し、日々変化があれば職員同士申し送りし注意している。また、明らかに体調の変化等があれば、主治医へ連絡し指示を仰ぎ対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の薬の情報は、ユニット内でもファイルに綴り、いつでも閲覧できるように対応している。薬を服用する際は、職員同士声を掛け合い確認し、入居者へ薬を提供している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便の管理を行っている。便の状況等も記録し、主治医より処方されている下剤の使用も便の状況によって、調整している。また、処方されている量でも排泄がない場合は主治医へ相談し指示を仰いでいる。毎日、排便を促進するように乳製品・繊維質の野菜を中心にした食事も提供している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後はうがいを行っていただき、就寝前は義歯を洗浄し翌朝まで保管している。うがいが困難な方には、指に綿花を巻いたり、濡らした綿花で食物残渣を取り除いている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量・食事は毎食事に記録している。本人のペースに合わせ時間や量も調整し対応している。水分を摂る事が苦手な方にもゼリーなど工夫しながら提供している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザのワクチンを入居者・職員含め接種している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>冷蔵庫の洗浄等を含め、管理を徹底している。職員は介助用と調理用のエプロン等も分けて対応している。食材を扱いは、デスポサブルのグローブを使用し対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>ユニットの玄関先は、季節の花を飾るなど明るい雰囲気作りに努めている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビング・居室内等には、入居者の写真や塗り絵等の作品を飾り工夫しているが破壊行為の方も多く注意している。また、居室内は認知の関係でタンスなど移動したり、危険な行為がある方の場合には、家族と相談し備え付けの棚に収納するなど対応している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングでは、職員と一緒に歌を歌うなどレクリエーションに参加される方もいるが、他者との交流が苦手な方もいる傾向の方は居室にて過ごして頂きながら、職員が声掛け等を行い、その方に合わせた対応に努めている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内は、家族の方が用意した家具等を使用して頂いている。また、家族の方との写真等も飾っている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居室内でポータブルトイレを使用する方や、オムツを使用している方が多い為、本人・他者が不快にならないように、排泄時には消臭スプレーを使用し換気等にも努めている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	既存の建物を使用しているため、ユニット内は数段の階段のある居室が2室ある。移動には昇降機を設置し入居者の負担にならないように職員が対応している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	時間はかかっても、食器拭きや洗濯物を畳んで頂くなど、その方のペースで出来る事は行って頂くように努めている。		
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物周辺は、坂が多く長く歩行する事が困難な方が多いが、眺めが良い為気分転換に屋上から風景を楽しんで頂けるように努めている。		
サービスの成果に関する項目				
項目		取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えています。		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者さんと楽し安全に過ごすように努めている。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
利用者さんと楽し安全に過ごすように努めている。